

紫峰の風

shihou no kaze

筑波大学 University of Tsukuba

第14号 2019年12月

「紫峰の風」は学生生活の様子や活動の報告を紫峰会基金協力者の皆様にお届けする広報誌で、紙面の企画や記事の取材等は学生広報会議や広報部会の学生が実施しています。この名称には「筑波の峰から吹き降りる風に、我々の活動への想いを乗せて、全国の皆さまのもとへお届けする」という意味が込められております。



中央図書館前の賑わい

来場者へ応援部WINSからのエール

5C棟前でのライブペイント

ユナイテッドステージでの沖縄県人会のエイサー

来場者にバルーンを手渡すところ

筑波大学紫峰会基金援助金目録贈呈

学園祭を終えて

第45回筑波大学学園祭「雙峰祭」は11月2日から11月4日の3日間、ほぼ晴天に恵まれ、大きなトラブルもなく、終えることができましたこと、大変嬉しく思っております。学園祭実行委員会の皆も、自分の置かれた場所で全力を尽くしており、その様子を本部から眺めて感動しておりました。また、企画団体・来場者の皆様・筑波大学紫峰会基金に寄附していただき我々にご支援いただいた保護者等の皆様のお力をひしひしと感じました。このようなお力があつたからこそ、たくさんの方にご来場いただき、盛大に学園祭を終えられたのだと思います。委員長として感無量でございます。誠にありがとうございました。

本年度から初めて行われた企画や取組みも多々ございましたが、そ

れらもうまく学園祭に溶け込み、新たな学園祭を作り出しておりました。よりTSUKUBAを感じ取れる学園祭ができたと考えております。来年度以降も、本年度よりパワーアップした学園祭が開催されることと存じますので、引き続き、応援・ご支援をいただけますと幸いです。

(寄稿/令和元年度筑波大学学園祭

実行委員会委員長 岸川知樹・社工2年)

今後の主な予定 (変更になる場合があります)

秋ABモジュール期末試験	12月20～26日
冬季休業	12月27日～1月5日
同(東京キャンパス・夜間)	12月25日～1月6日
秋ABCモジュール期末試験	2月4、7、10、12、13日
同(東京キャンパス・夜間)	1月28～31日、2月15日
秋学期授業終了	2月13日
同(東京キャンパス・夜間)	2月8日
期末試験予備日	2月14日
同(東京キャンパス・夜間)	2月4～6日
春季休業	2月15日～3月31日
同(東京キャンパス・夜間)	2月16日～3月31日
卒業式・大学院学位記授与式	3月25日
同(東京キャンパス・夜間)	3月28日

—内容—

就職活動を終えて、学生相談室から、桐の葉日記………	1頁
キャンパスニュース………	1、2頁
特別援助金報告、留学報告、令和元年度就職ガイダンス日程表、Editors'2019、大学広報物のリンク集、筑波大学紫峰会基金運営委員会の報告、お知らせ………	2頁
文サ連、芸サ連、体育会、全代会紹介………	3、4頁
特集、学生の1週間………	4頁

キャンパスニュース

第96回箱根駅伝予選会 予選突破!
26年ぶりに筑波大が復活!

箱根駅伝 本戦出場決定!



激走する選手 (左から金丸逸樹選手、猿橋拓己選手、西研人選手)

Photo by Nishihira

相馬崇史選手

川瀬宙夢選手

激励に駆け付けた応援部 WINS

胴上げする学生たち

スタート前の円陣



歓喜に沸いた結果発表の瞬間

“襷”を囲んで 陸上競技部長距離パートメンバー

学生の本気と支援がこじ開けた26年ぶりの扉

第6位で筑波大学の名が呼ばれ、26年振りの箱根駅伝出場が決まると、陸上競技部員と教職員、卒業生、支援者らが歓喜の瞬間を喜び合った。年々注目度を増す現代の箱根駅伝は、私立大の台頭が著しく、国立大には永遠に出番は回ってこないといわれていたはずだ。その牙城を崩し、学生スポーツの本来の姿を示すために、本学は2011年にプロジェクトを立ち上げた。箱根駅伝を創設した大学として、金栗四三の想いと願いを具現化することが我々の使命であるとの考えからだ。周囲には笑う者さえないだろう。しかし、2015年に駅伝監督に招聘された弘山勉は、クラウドファンディングなどで支援を呼びかけ、大学の枠を超えた“チームつくば”とい

う構想のもと、学生たちのサポート体制を築き、今回の偉業に結びつけた。26年間も止まった時計の針。その針を動かしたのは、学生たちの本気と錆ついた歯車に油を注いしてくれた応援と支援に他ならない。若者が生き生きと活動できるのは支援があつてこそ。学生たちは支援者の皆様とともに歩んでいるのです。

(寄稿/陸上競技部 男子駅伝監督 弘山勉)

筑波大学 箱根駅伝復活プロジェクトWEBサイト

<http://tsukuba-hakone.win/>
クラウドファンディングで寄附を募っております。
詳細はこちら(右記QRコード参照)
<https://readyfor.jp/projects/TeamTsukubaHakoneEkiden>



就職活動を終えて

システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 2年 鍵村拓也



所属サークル:
筑波大学ジャグリングサークルSheep

職種:エネルギー系・技術総合職

就職活動期間:3月～4月

就職先を決めた判断材料:会社の雰囲気, 地域貢献, 福利厚生

就職活動中に心がけていたこと:自分の軸を見失わないようにしていました。就職活動中は様々な企業の話聞く機会があり、多くの情報を入手することになります。そこで軸をしっかり持つことで情報の取捨選択が簡単にでき入社したい企業を決めることができました。また、面接での受け答えにも役に立ちました。

大学生活で就職活動中役に立ったこと:興味あることに対して積極的に活動していたことです。やりたいことをやる際に見ず知らずの大人と話すことが多かったため、面接の際も緊張することなく話すことができました。また、自己アピールする内容にも困ることがありませんでした。

就職活動で失敗したこと:面接対策をしなかったことです。面接で原稿を覚えて答えることに違和感があったので、原稿やこんな質問にはこ

う答えるなどの準備をしませんでした。結果としてはうまくいったのですが、回答する際綺麗にまとまらない場合があるので、質問に対する言いたいことは箇条書きしておくべきだったと思います。

就職活動で学んだこと:何事も楽しむ大切さです。私は就職活動の初めは非日常感があり楽しかったのですが、途中から飽きがありました。そこで、就活中は東京で何を食べようか、どこに遊びに行こうかなど就活以外のところで楽しみながらモチベーションを保っていました。今後何事に対しても途中で飽きてしまうことがあると思いますが、こういった方法でモチベーションを保ちつつ楽しむことが大切だなと思いました。

何社受けて何社受かったか:6社受けて1社受かり、他5社は選考途中で辞退しました。

先輩に一言:「自分を見直すいい機会になります」、「世の中の会社が何をしているのかを知ることができる機会」などよく言われますが、だいたい2週間ぐらいでそんなことはある程度わかって途中から飽きることもあると思います。どうにか楽しみを見つけながら頑張ってください。

保護者に伝えたいこと:小さい時から私がやりたいことに対して、自らの力で実行するようにさせてくれて感謝しています。そういった経験があったからこそ、自分のやりたいことを実行する力がついて豊かな大学生活を過ごすことができました。

人間学群 心理学類 4年 村上 誠



所属サークル:
社会福祉研究会道心園西ホームグループ

職種:人材派遣サービス・総合職

就職活動期間:11月～4月

就職先を決めた判断材料:事業内容、勤務地、市場範囲、社員・内定者の雰囲気

就職活動中に心がけていたこと:面接の会話内容を次に活かすように心がけていました。筑波大学の学生は他大学の学生に比べ就職活動が遅めであると言われており、私も例にもれず夏休みの期間はアルバイトや旅行に時間を費やしました。そのため、いわゆる「自己分析」に割く時間がなく、本番の選考の中でいかに成長できるかが鍵になっていました。私の受けていた人材業界の面接は、他の業界に比べ特に自分の経験したことを深掘りします。そこで私はその特徴を逆手にとり、人材のプロである面接官との会話を面接後書き起こしながら振り返ることで、自分がどんな性格で、どんな思考回路をしているのか分析しました。良質な自己分析をしっかりと自分のものにできたことは、短い期間でのステップアップに非常に役に立ちました。

大学生活で就職活動中役に立ったこと:大学のサークル活動やアルバイトなど、日々の学生生活の中で真剣に取り組んだ経験が役に立ちました。私はESや面接で企業にアピールできる大きな挑戦をした経験がなく、普段の生活の中でこなしていたものを伝えるほかありませんでした。しかし、面接官が知りたいことは自分の残した功績の大きさよりも、自分がどんな人間であるかということなのです。日々の活動を顧みて、大事にしている価値観や集団の中での役割、周りからどんな人だと思われるかなどを抽出できれば、それは大きな武器になります。どんな内容であれ自分が本気で考え、行動した経験は自分をアピールする際に大いに役に立ちました。

就職活動で失敗したこと:早期選考に準備不足のまま参加したことです。私は就職活動を始めて間もない時、ある企業の早期選考を受けました。面接もほとんど初めての状態で、結果二次選考で落ちてしま

いました。その後就職活動を続けていく中で、その企業の大きさや整った福利厚生に改めて魅力を感じてしまう場面がありました。もちろん早期選考はお得なことが多々ありますが、その企業の志望度や準備段階を冷静に見直した上で、参加するかどうかを判断した方がよかったです。

就職活動で学んだこと:就職活動では、自分自身を知ることの大切さを学びました。ESや面接では半ば強制的に、自己分析をせざるを得ません。しかし自分を知ることが就職活動のみならず、日々の生活の中でも活かすことができます。所属団体においてどのようなポジションが自分に向いているのか、心や体に負荷がかかった際にどのように対処すればよいのかなど、知っていることで毎日を健康的に、精神的に過ごすことができるのです。就職活動は人生の中でも一番自分を見つめ直す時期と言われてます。この経験を逃すことなく自分のものにするので、その後のQOLを上げることができたと感じました。

何社受けて何社受かったか:15社うけて5社です。

先輩に一言:就職活動において、最終的に内定を決めるのは企業との「縁」です。どんなに志望度が高かったとしても人柄が合わないと落ちてしまいますし、自分を偽って入社してもその後の生活に支障が出かねません。しかし、ある程度の対策や準備をしておくことで、内定が出やすくなることも事実です。嘘をつくのではなく、自分の良さを一番にアピールする。それができれば、きっと悔いのない就職活動ができると思います。皆さんは優秀で、とっも素敵な学生です。自信を持って、「人事を尽くして天命を待って」下さいね!

保護者に伝えたいこと:面接では、小学生の時やそれより更に小さなころの話が訊かれることがあります。就活生がどのような考えを先天的にしているのか、更に現在と比べることでどのような成長をしたのかを知るためだと思われます。そんな時に役に立つのは、やはり親との会話内容でした。普段からコミュニケーションを多くとり、昔のエピソードなどを積極的に話してくれていた親だからこそ、比較的すらすらと答えることができたと思います。感謝でいっぱいです。一人暮らしをしている中で就活は、実家の両親にとっては見えない部分が多く、心配をかけたと感じているので、自分の選択が間違っていないことは今後しっかり証明していきたいです。

キャンパスニュース

盆LIVE

9月21日、研究学園駅前公園で、筑波大学T-ACTの支援を受けた盆LIVE実行委員会主催の「盆LIVE2019」が開催された。

盆LIVEは、筑波大学T-ACTの活動が発展したもので、会社や市の協力も得ながら2015年から毎年行われている。5回目となった今年の盆LIVEのテーマは「猫も杓子もぼぼんが盆」。当日は曇り空で少し肌寒かったが、その天候を感じさせないほど、会場は踊る人たちの熱気に包まれていた。3部構成の盆踊りの他に、お囃子やパフォーマンスも行われ、さらには屋台や縁日も出ており、老若男女問わず幅広い年代の方々が来場し楽しんでいた。

伝統的な盆踊りの振り付けを現代的な邦楽や洋楽に合わせて踊る、盆踊りとLIVEの融合という珍しい試みが、盆踊りの新たな形として今後さらに普及・発展することを願う。

(取材/文責連広報局員 駿河くるみ・心理2年)



円になって踊る来場者

食と酒東北祭り

食と酒東北祭りは2011年の東日本大震災をきっかけとし、東北の魅力を楽しみながら東北を応援する、という趣旨で開催されているお祭りです。

毎年、東北の日本酒と郷土料理を東北の方に提供していただいております。また、実行委員企画も取り揃えており、子供から大人まで誰でも楽しめるような祭りになっています。

今回で6回目となった食と酒東北祭りは、台風の影響もありましたが、多くの方にご来場いただき、日本酒やお料理を片手に東北の魅力を楽しんでいるところが見受けられました。また、お客様と店舗さんとのコミュニケーションも活発で、祭りを通して東北とつくばを繋ぐことができたことにとっても意味があると感じました。今後も末長く祭りを続けていければと思っています。

(寄稿/食と酒東北祭り実行委員代表 原田吉成・資源4年)



蔵人から来場者へ手渡される日本酒

学生相談室から

総合相談窓口 029-853-8430
学生相談受付 029-853-2415

「学生相談室が移転しました！」

人間系 杉江 征

大学は秋学期も始まり学生の皆さんが夏休みから帰ってきて、なんとなくキャンパス内に活気が戻ってきました。そんな折、10月7日から、学生相談室は、これまでであった保健管理センターから、その並び隣にある学生会館B棟(宿泊施設や丸善の書籍部、郵便局などがある建物)の4階に移転しました。

開学以来、学生相談室は保健管理センターの中にあり、どちらかという「医療」の枠組みの中で活動してまいりました。これからは、これまでの活動も継続しつつ、学生相談の心理教育的な機能を強化して、学生支援のより一層の充実を図っていきます。

学生相談は、青年期という発達期の重要な時期にある学生のみならず、対話を通して、その人間的な成長を援助するという、個別的教育活動とも言えます。来談した学生のみならずと個別に会い、ゆっ

たりと時間を取って、学生のみなさんが語ることを「大学人」としてきちんと聴き、心理臨床の専門家として必要な支援を行っていきます。そこには、学生が自己を語り、そして自己を理解し、自己をまとめていくというカウンセリングのプロセスも含まれています。問題の改善や治療という視点だけではなく、個々の学生の発達や成長という視点を持ちながら、適宜必要な心理教育的なかわりを行っていくという教育機関ならではの特徴があります。緊急な場合を除いて、原則カウンセラーが直接動いて問題解決を図ろうとはしません。自分自身で自ら解決できるよう援助していきます。そして、問題の多くは、大学という環境や文脈の中で起こってきていますので、その大学の教職員が「話を聴く」ことにも意味があると思っております。

お子さんのことでご心配なことがありましたら、これまで通り気兼ねなくご相談いただければと存じます。学生のみなさんが、本学の教育や研究を享受し、個々の力を発揮しながら、それぞれが輝けるように、学生相談室と一緒に知恵を絞っていききたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

桐の葉日記

冬の足音がひしひしと聞こえてきます。つくばの秋は寒暖差が激しく、学生の中にも風邪をひいてしまう人が多いようです。事実として私も、この文章を書いているまさに今、鼻水と咳が主役の風邪と格闘しています。読者の皆様方におかれましても、お身体にはどうぞお気を付けください。

さて、学内では秋学期も軌道に乗り始め、学生も教職員も慌ただしい毎日を送っています。私はこの秋学期から、「演習」に分類される発表型の授業が多くなり、日々発表のための文献調査や資料作りに追われています。演習授業では当然、各学類の専門分野

に関する話題を扱いますが、ここで得られるのは専門分野への深い理解だけではありません。先に述べましたとおり、発表のための資料づくり等も行うため、他者に情報をどのように伝えていくかも学ぶことができます。これからの社会に求められる、意見を発信する力を身に付ける環境が大学には整っているのだと考えます。これからも各学生が主体的に研究を深め、世の中に学びを発信し続けていくような大学の姿を望んでやみません。

(文責/全学学類・専門学群代表者会議議長 瀬邊風馬・日2年)

キャンパスニュース



学位記の授与

令和元年度卒業式・学位記授与式(9月期)

9月25日、令和元年度卒業式および大学院学位記授与式(9月期)が学生会館ホールで行われた。晴天に恵まれ、残暑に汗ばむ気候のなかで卒業生とその家族が学生会館に集った。通常の卒業式と半年ほど時期の異なった式は留学生がほとんどを占める。会場は卒業生とその家族で一杯になり、スーツや袴といった晴れ着だけでなく各国の民族衣装に身を包んだ卒業生も多数見受けられた。式前後には、家族や研究室の仲間とスマホでセルフィーを撮る様子も見られ、門出を祝う笑顔があふれていた。式ではそれぞれの学群・研究科を代表する学生が登壇し、田中先生等から学位記を受け取った。学位記を受け取った卒業生が降壇後に家族からのプレゼントを受け取る場面もあり、式は和やかな雰囲気で行進していった。学長は式辞のなかで卒業生の将来に励ましの言葉を英語で贈った。在学生在が新学期への準備をはじめ9月の下旬にまた新たな筑波大学の卒業生達が生きた世界へと飛び立った。

(取材/広報部会 山岸素子・知識3年)



新入生にエールを送る応援部 WINS

令和元年度秋学期入学式

9月30日、暑さも落ち着き風が心地よくなるころ、秋学期入学式が学生会館ホールにて執り行われた。春学期の入学式とは違って変わり、式では様々な国の出身である学生が一堂に会し、それぞれが思いの衣服に身を包み、入学式に臨んだ。式が始まる前に、新入生たちはお互い会話を通じて交流をしつつ、新しい生活を前に心を躍らせている様子だった。

式中には永田学長が登壇し、式辞として新入生に向けて英語で激励のメッセージを送った。メッセージには、変化する時代の中で起こる様々な問題に立ち向かってほしいという強い思いが含まれていた。

式の終わりには2名の学生による筑波大学メッセージソング『IMAGINE THE FUTURE ~未来を想え』の歌唱が行われた。加えて応援部WINSによる英語を用いたパフォーマンスが行われた。WINSによるパフォーマンスでは筑波大生に馴染みのある言葉を紹介しつつ、新入生たちに熱いエールを送った。両者のパフォーマンスには大きく温かい拍手が送られ、式は幕を閉じた。

(取材/広報部会 稲葉彩月・教育3年)

特別援助金報告 ~ワンダーフォーゲルクラブ 海外遠征登山に参加して~

台湾。台湾と聞いて人々は何を思い浮かべるだろう。ガイドブックを開いてみても良い。だが、一度、ガイドブックを閉じて顔を上げてみよう。天高く聳える台北101の向こうに、雲に隠れた地平線の彼方に、ガイドブックには載らない、恐るべき台湾が潜んでいるのだ。台湾で2番目に高い雪山[せつさん](3886m)。そこから、台湾三尖の一つ、大霸尖山まで続く稜線は聖稜線と呼ばれ、台湾で最も美しい稜線として知られている。そんなまだ見ぬ美しい稜線を求め、この春、我々は聖稜線を含む、4泊5日・40キロを越える行程を計画した。新元号発表に湧く4月下旬。我々は日本を飛び出し、台湾の地を踏んだ。最初の数日で現地での準備を済ませ、登山口をめざす。連なる山と深い谷、それを覆う濃い緑が我々を圧倒する。大きな期待と少し不安を抱いて一歩を踏み出した。運良く序盤は天候に恵まれ、快晴の中、雪山の山頂を踏むことができた。しかし、この後天候は崩れ、聖稜線の大部分を雨の中

で過ごすことになる。根気強く振り続ける雨。鳴りやまぬ雷鳴。登るべき岩壁は小滝に、登山道は沢と化した。助け合い、励まし合い、黙々と歩みを進める。ただ複数人で山に登るのではない、パーティーとして団結して困難を乗り越えて行くのだ。気づけば聖稜線は終わり、雲間から青空が覗いていた。隊員全員でこの山行を完遂することができて良かったと思う。今回山行を完遂できたのは多くの人の助けがあったからこそだと思います。特に、筑波大学紫峰会基金の特別援助金を利用し資金面で大きな余裕ができたことが充実した安全な山行に繋がりました。この場を借りて、一同感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(寄稿/ワンダーフォーゲルクラブ元主務 木村文岳・数学4年)

援助対象	ワンダーフォーゲルクラブ海外遠征登山
特別援助金区分	海外遠征C
援助金額	40,600円



聖稜線への関門



雨、風、雷。令和の初日。

留学報告

人間学群 教育学類 3年 貴志光加里

「大学3年生の夏」というと、就活・インターンについて考えたり、卒論のテーマについて考え始めたりと忙しい時期ではないでしょうか。もちろん私もそれにあてはまっていたのだが、「大学生になったら海外へ留学して、英語でコミュニケーションをとりたい」という長年の夢があり、留学することを決めました。

私は今回、大学の夏期海外英語研修のカナダ・ビクトリア大学コースに参加し、1ヶ月の間、ホームステイをしながら、大学で英語を学びました。

大学では、150分の授業が午前と午後一コマずつあり、13人のクラスメイトたちと一緒に授業を受けました。時期的なこともあり、私のクラスは全員がアジア出身でした。プログラムでは、クラスメイトとコミュニケーションを取ることに重きを置いていたため、ディスカッションやプレゼンテーションを主とした授業でした。ニュース記事やTEDスピーチ、時にはアーティストのMVを参照しながら、文化や政治、ライフスタイル、教育などのテーマについて、意見を交わしました。多様なバックグラウンドと価値観を持つクラスメイトと議論する際は、いつも新鮮で刺激的で、自分の考え方がいかに固執しているかを考えさせられる場面もあり、「英語を使う」以上の経験ができた授業ばかりでした。

授業後や休日といった自由な時間には、大学の図書館やカフェに行き授業の復習や翌日の授業準備をしたり、友達と一緒に町へ遊びに行ったりしていました。町に出て、地元の人たちと会話をしたりするのは、「生の英語」を聞くことができる良い機会でした。時には聞き取れず苦労することもありましたが、ビクトリアの人たちはとてもフレンドリーで親切だったため、臆することなく話しかけることができました。街の人たちと話す機会は、人々の温かさに触れる機会でもありました。

そしてカナダ滞在中は、ホームステイをしていました。私のホームステイ先の家族はインド出身だったため、カナダの食文化や生活文化に触れつつ、インドのそれも同時に体験しました。家族のみならず、一日

の出来事やカナダ・インド・日本の文化の違いについて話したりするだけでなく、お寿司の作り方を教えたり、逆にインド料理やヒンドゥー語を教えてもらったりと楽しく貴重な経験でした。

改めて今回の研修を振り返ってみて感じることは、この1ヶ月の経験は今の私に大きな影響を与えていると言うことです。英語のトレーニングをしつつ、それをツールとして、多様な他者とやりとりすることは、自分の考え方に大きな変化をもたらしました。そして、1ヶ月一緒に学んだ、様々な国の友達を得ることができました。さらに、今回の研修が英語を学習するモチベーション向上にも繋がっています。「あのとき、上手く英語で表現できなかった」「もっと自分の思いを伝えなかった」という悔しさと、「発音きれいだね」と褒めてくれた友達の言葉が英語を勉強する私を後押ししてくれています。

最後に、今回の留学は私にとって、「大きな買い物」でした。いつもの生活を長期間離れて、異国の地に身を置くことは勇気が必要で、やはりそれなりの費用もかかるからです。だからこそ、この機会を無駄にしたいくないと、可能な限り準備をして臨みました。大きな買い物だからこそ、準備すればするほど、かけがえのない「一生モノ」が手に入るのだと思います。今回の経験は間違いなく私にとっての「一生モノ」になりました。そしてそれをさらに力に変えて、これからの自分の成長に生かしていきたいと思っています。



フェアウェルパーティにて、クラスの先生と

人間学群 心理学類 2年 村川菜月

私は、昨年の夏休み期間(2018年8月4日から8月27日)に、比較文化学類開設の2018年度カナダプリンスエドワード島大学夏期英語研修に参加し、カナダ東部にあるプリンスエドワード島に留学しました。なぜ留学したのかというと、今まで勉強してきた英語を実際に使い、生きた英語に触れてみたいと思っていたからです。そしてこの島が私の好きな小説「赤毛のアン」の舞台であったため、本プログラムを選びました。

留学中はホームステイをしながら、プリンスエドワード島大学にて、カナダの文化や社会の講義を英語で受けました。10人ほどのクラスで、ペアワークやグループワークが多く、英語で意見を述べました。講義だけでなく、農作業体験、島の人の交流、赤毛のアンミュージカル鑑賞などのアクティビティもありました。最後はカナダと自国の文化を比較したプレゼンテーションを行いました。ホームステイ先では、食事やその後の家族団らんを通して、新しい英語表現を身につけられたと思います。

英語を話せることは他国の人とコミュニケーションを取るための道具に過ぎないことを痛感しました。大学での講義は自分の考えを英語で述べるのがほとんどでした。始めは英語が話せないことが大きな壁のように感じていました。しかし、それ以上に自分の考えを持つことの方が大変でした。例えば、難民問題や環境問題といった世界の問題について、「あなたの国では、また、あなた自身は問題をどう捉えるか」と

問われた際、自分のそれらに対する知識が少なく、また明確な意見を持っていなかったため、戸惑いました。国内や国外のニュースに目をつけたり、それらについて考えたりしておけばよかったと後悔しました。

また、カナダやその社会・文化を学び、日本との違いについて知ることができました。特にカナダは多民族国家であり、異なる文化同士が互いに尊重しあっていました。日本に比べると、日本文化ばかりが目付きませんが、他の異なる文化についても学んでいきたいと思っています。

海外へは何度か行ったことがありましたが、英語を話さなければ生活できない環境に囲まれたのは初めてでした。このプログラムの修了後、英語が非常に流暢になったわけではありません。しかし、少しではありますが、英語を使って自分を表現することができるようになりました。英語の勉強と並行して、物事について考えられるようになりたいと思っています。



グリーンゲイブルズ(「赤毛のアン」の家)

令和元年度就職ガイダンス等日程表(12月以降実施分) 学生部就職課

主に令和3年3月卒業・修了予定の学生向けに下記の通りガイダンス、講座を開催します。日時、内容等に変更が生じる場合がありますので、必ず「学生部就職課ホームページ(https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/)」にてご確認ください。

○就職支援プログラム(企業・団体)○

◇就職活動実践対策			
日	時	会場	実施内容
元.12.19(木) 2.1.23(木) 2.2.20(木) 2.3.23(月)	10:10 - 11:25 13:45 - 15:00 15:45 - 17:00	就職課会議室	エントリーシート対策、グループディスカッション対策、集団面接対策(事前予約制)

◇業界研究会			
日	時	会場	実施内容
元.12.2(月)~12.6(金)	13:30~16:50	大会会館	各業界の担当者やOB・OGが来学し、ブースごとに業界概要の説明や質問等に応じてくれます。(各5日間各28社 合計280社出展予定)
2.1.21(火)、22(水)、27(月)~29(水)	13:30~16:50		

◇学内企業説明会			
日	時	会場	実施内容
2.3.1(日)~3.6(金)	【午前の部】10:00~12:20 【午後の部】14:30~16:50	大会会館	各企業の人事担当者やOB・OGが来学し、ブースごとに企業概要の説明や質問等に応じてくれます。参加企業については、随時就職課ホームページでお知らせします。(6日間 合計540社出展予定)

○就職支援プログラム(教員)○

◇教員採用説明会(事前申込制)			
日	時	実施内容	講師
元.12.18(水)		茨城県、埼玉県、神奈川県、新潟県公立学校教員採用試験説明会	各県教育委員会

◇教員採用試験対策講座 教職教養試験対策(事前申込制)			
日	時	実施内容	講師
2.2.20(木)		教職教養基礎復習	筑波大学OB

◇教員採用試験対策講座 論作文対策(事前申込制)			
日	時	実施内容	講師
元.11.20(水)	第1回-A	合格論文の書き方	筑波大学OB
元.12.11(水)	第1回-B		
2.2.5(水)	第2回-A		
2.3.3(火)	第2回-B		

◇教員採用試験対策講座 人物試験対策(事前申込制)			
日	時	実施内容	講師
2.1.15(水)	第2回	志望動機、自己PR	筑波大学OB
2.1.20(月)	第3回	個人面接、集団面接	
2.1.29(水)	第4回	場面指導	
2.2.18(火)	第5回	個人面接、集団面接	
2.2.27(木)	第6回	個人面接、集団討論	
2.3.5(木)	第7回	模擬授業	
2.3.18(水)	第8回	総集編	

◇教員採用試験模擬試験(事前申込制)			
日	時	実施内容	講師
2.1月	第1回	【全国型】①	
2.2月	第2回	【全国型】②	
2.3月	第3回	【東京都型】【茨城県型】【神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市型】【埼玉県・さいたま市型】【千葉県・千葉市型】	
2.4月	第4回	【全国型】③	

○就職支援プログラム(公務員)○

◇公務員試験対策(事前申込制)			
日	時	実施内容	講師
2.3月		面接試験、集団討論、官庁訪問(国家、地方公務員志望者対象)	

キャリア・就職相談のご案内

DACセンター/就職課では、経験豊富なキャリアカウンセラーが個別に相談に乗っています。就職活動は元より、進路全般に関するアドバイスや情報提供を行っています。学年は問いませんのでお気軽に就職課をご利用下さい。尚、個別相談は事前に予約が必要です。基本の相談時間は下記の通りですが、別にご希望がある場合は予約時にご相談ください。

- ①9:20~ ②10:20~ ③11:20~ ④13:20~ ⑤14:20~
- ⑥15:20~ ⑦16:20~ ※1回の相談時間は45分程度です。

【相談の予約・お問い合わせ】
 学生部就職課(第一エリア1D学生センタープラザ内)
 電話:029-853-8444 (受付時間 平日8:30~12:15 13:15~17:15)

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター DACセンター/学生部就職課
<https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/>

「博士後期以降のキャリア支援」
WebサイトとTwitterができました

筑波大学大学院に在籍及び大学院進学に興味がある学生の方を対象に、本学のキャリア支援に関する情報(学内イベント情報や研究型インターンシップ、その他博士人材の活躍や進路、就職活動情報など)をお届けします。

Webサイト



【Webサイト】 https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/?page_id=11634

Twitter



【Twitter】@UTsukuba_career

Editors'2019

▶広報の仕事に初めて参加して、すごく新鮮でした。自分たちで記事や特集のアイデアを出して、取材に行って、レイアウトを考えて、最後に記事を作成して、作品を創作する時の悩みと達成感を味わいました。私は外国からの留学生で、日本語で取材することも文章を書くことも苦手で、他のメンバーにいろいろ助けてもらいました。広報の仕事で色々なことを体験して、自分の成長を感じました。
(文サ連広報局長 洪浩麟・芸専2年)

▶広報の仕事は初めてで戸惑うことも多々ありましたが、とにかく得るものがたくさんあって、良い経験になりました。一眼レフカメラで写真を撮る、自分たちで考えた企画の取材を行う、記事を書いて会議全体で校正するなど、広報会議メンバーになったからこそ経験できたことが、自分の今後の成長の糧になっていくと思います。広報会議に携わったこの一年間は、自分にとってかけがえのない貴重な時間でした。
(文サ連広報局長 駿河くるみ・心理2年)

▶あつという間の1年でした。今思うと、広報会議に参加しなければ自分が関わることのなかった大学のイベントや行事が沢山あったと感じます。一眼レフカメラを扱うのも初めての経験でした。一番思い出深いのは発送作業でした。保護者の皆様へ大学のことを伝えることはこんな風に自分たちが大学を、様々なことを知るきっかけにもなりました。感謝します。
(芸サ連広報局長 松村岳・芸術3年)

▶1年間筑波大学に根差した広報活動を行うことで多くの経験が得られました。特に、これまで知らなかった、あるいは行ったことのないイベントに取材に訪れたときには自分の知らない大学の一面を見たような気がして、筑波大学や通っている学生の奥深さを感じました。1年間このような活動に参加させてもらったことを大きな誇りに思うため、この経験を確実に自分のものにして残りの学生生活を大切に過ごしたいと考えています。
(芸サ連広報局長 栗山宏斗・応理3年)

▶普段の生活では触れることのできない、取材をはじめとしたこの広報誌「紫峰の風」の作成に携わったことは、私にとって新しい世界でのことでも良い経験になりました。この役職なくしては出会えなかった人たちがたくさんいます。自分自身、何事も楽しくやりきることを目標とする中で大きく成長することができたと感じます。ここで止まることなく、さらに次へ繋がるよう努力していくつもりです。
(体育会広報局長 河原井かれん・芸専2年)

▶広報の仕事というものが初めての経験で、何をするのか想像もつかない状態でメンバーとなりました。それから1年、イベントの取材や、会議での案出しなどにも楽しみを見出せるようになったことに自身の変化と成長を感じています。編集の世界の一端をこうして体感することが出来たのはとても有意義な経験でした。
(体育会医学広報局長 根岸駿太郎・医学2年)

▶「筑波大学で行われたイベントをいかにわかりやすく伝えていくか?」これが我々学生広報会議のメンバーが持つべき使命であると考えます。どのような記事があればわかりやすいかを主眼に置き、記事の内容を考えていくことで、普段生活する中では気づきにくい大学の側面が見えてくる気がします。まだまだ努力が必要ですが、引き続きわかりやすく大学のイベントを伝えていければと思います。
(全学学類・専門学群代表者会議 議長 瀬邊風馬・日日2年)

▶全大会の広報委員会ではひたすら記事執筆の作業をしており、一眼レフカメラで撮影取材をするという経験はほとんどなかったのですが、「紫峰の風」の作成に携わることを通じて撮影等様々な経験ができたので良かったです。約1年間大変お世話になりました。
(全学学類・専門学群代表者会議副議長 軽辺凌太・地球2年)

大学広報物のリンク集

紫峰の風
 編集: 学生部学生生活課、学生広報会議・広報部会
 発行: 事業開発推進室
<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/shihoukai/backnumber/>

筑波大学新聞
 編集: 筑波大学新聞編集部
 発行: 筑波大学
<http://www.tsukuba.ac.jp/public/newspaper/shinbunindex.html>

TSUKU COMM[ツクコム]
 編集・発行: 筑波大学広報室
<http://www.tsukuba.ac.jp/public/booklets/communications/index.html>

筑波スポーツ
 編集: 筑波スポーツ編集部
 発行: 筑波大学体育会
https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~taiikukai/tsukuba_sports

筑波大学紫峰会基金より

平成30年度 筑波大学紫峰会基金援助金支給報告

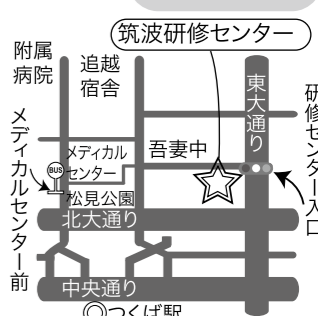
援助金項目	金額(円)
課外教育行事援助金	2,925,000
課外活動団体援助金	20,500,000
特別援助金	1,149,021
組織助成金	0
育成指導補助給付	42,370
記念品特別支給	0
合計	24,616,391

令和元年7月9日に開催された筑波大学紫峰会基金運営委員会にて、平成30年度の紫峰会基金援助金の支給について報告されました。概要は次のとおりです。

宿泊施設・館内食堂のご案内 紫峰会基金協力者と旧紫峰会会員の方は1泊200円割引します

筑波研修センター
 ・1泊3800円より(食事別)
 ・シングル145室・ツイン5室・和室5室
 筑波大学同窓会「若深会」の関連法人「(一財)筑波学都資金財団」が運営する宿泊施設です。電話予約は7時から24時まで受け付けています。割引対象の方は予約受付の時に申し出下さい。

館内食堂 朝食550円 夕食750円~900円
 (定休日がありますので、ご利用の際はあらかじめご確認ください)





〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5 E-mail center@meikei.or.jp
 Tel. 029-851-5152 Fax 029-851-8886 URL <http://www.meikei.or.jp/~center/>

紫峰の風 第14号 2019年12月発行
 発行: 事業開発推進室
 編集: 学生部学生生活課
 学生広報会議(軽辺凌太・地球2年、河原井かれん・芸専2年、栗山宏斗・応理3年、洪浩麟・芸専2年、駿河くるみ・心理2年、瀬邊風馬・日日2年、根岸駿太郎・医学2年、松村岳・芸術3年)
 広報部会(黒川真臣・生命環境4年、山岸素子・知識3年、稲葉彩月・教育3年)

タイトルロゴデザイン 塚本真理(芸術2016年度卒)
 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
 電話:029-853-5886 E-mail: gk.shihokai@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学紫峰会基金WEBサイト
<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/shihoukai/>

筑波大学紫峰会基金に寄附して下さった皆さまへ

皆さまからいただいたご寄附の全額を課外活動団体援助金等として、使用させていただいております。援助金のおかげで活動にかかる負担が減り、学業や課外活動をさらに充実することができました、大変感謝しております。

今後も我々の活動を見守ってください。

課外活動団体一同

文化系サークル連合会活動紹介



5月に北海道あすなろの里で行ったキャンプファイヤー

野外活動クラブ

野外活動クラブでは主にキャンプなど野外での活動を行っています。8月後半には夏休みを利用して「長期キャンプ」という野外活動クラブのメインイベントを行いました。長期キャンプとは前後半でそれぞれ目的地を設定しそこに向け班ごとに移動し道中ご当地グルメや温泉を堪能するというものです。今年は、前半は北海道の旭川、後半は洞爺湖を目的地と設定しました。サークルのメンバーはそれぞれ北海道の新鮮な海鮮を堪能しました。そして前半と後半の最終日にそれぞれキャンプを行います。北海道ならではの新鮮な魚介類やジンギスカンをみんなで食べ満足な長期キャンプとなりました。他にも冬場にはスキー、スノーボードなどシーズンスポーツなども行ってあります。

(寄稿/野外活動クラブ部長 佐藤佳祐・地球3年)

筑波大学ストーリーテリング研究会

こんにちは、筑波大学ストーリーテリング研究会です。弊サークルは主に読み聞かせを活動内容としているサークルです。つくば市立中央図書館では月1回第5土曜日(なければ第4日曜日)、吾妻保育所には年10回水曜日に30分間の読み聞かせを行っています。他にも、例年11月に行われた雙峰祭では、情報学群知識情報・図書館学類にて教鞭をとっておられる宇陀先生と松村先生の研究室が合同で行っている図書館企画にて2日間、1日30分ずつの読み聞かせを行っており、今年度も同様に図書館企画への参加をさせて頂きました。また、祝日や長期休暇、テスト期間1週間前からテスト期間終了日以外の間は週1回金曜日18時30分から筑波大学春日エリアの福利厚生棟2階にある部室にて自由参加のミーティングを行っています。6-8月のミーティングでは、連絡事項の周知、つくば市立中央図書館や吾妻保育所での読み聞かせを行う部員募集の他、5月に新しく入会した部員の読み聞かせ練習会を行いました。ミーティングが行われる福利厚生棟2階の部室では、絵本や紙芝居の本を部費にて定期購読を行っており、人気絵本作家や人気キャラクターについての特集やインタビューが掲載されている絵本雑誌である『月刊MOE』、その他折り紙やハンドパペットとして使用できるぬいぐるみといったものを管理しています。所属している部員は多くありませんが、ミーティングや活動の参加率は高く、穏やかなサークルです。

(寄稿/ストーリーテリング研究会代表 鈴木清香・知識3年)

マジシャンズクラブ

筑波大学マジシャンズクラブでは、お客様の目の前でいうトランプなどを使ったクローズアップマジックから、大きな舞台で行うステージマジックまで、様々なマジックを披露しています。例えば、毎年8月につくば駅付近で行われるまつりつくばでは、ブースの一部をお借りしてトランプなどのマジックを、11月に筑波大学にて行われる雙峰祭においては、講堂をお借りして3年生がステージマジックを披露しています。また、本サークルでは幼稚園のクリスマス会など、ちょっとしたイベントにおいても、ご依頼がありましたら子供たちに手品を披露することもあります。加えて、ステージマジックの大会ともいえる「連盟発表会」にも毎年出場しています。この発表会には、東京大学や早慶、東洋大学などといった、関東の様々な大学が参加しており、時にはこういった大学のマジックサークルと協力し合い、また時には競い合っています。このほかにも、テーブルマジックの大学対抗戦として、東京大学や茨城大学とマジックの腕を競うことも行っております。この対抗戦には審査員として、プロのマジシャンの方々も見に来ていただけるので、非常に良い経験となっております。日々の活動では、こういったマジックを披露する場面に向け、サークル員が一丸となって練習を行っています。練習は週に2日間行っており、時にはメンバーが個人的に練習会を開くこともあります。一生懸命練習しておりますので、機会がありましたら是非ご覧ください。

(寄稿/マジシャンズクラブ29代会長 蜂須康介・社工3年)

現代視覚研究会

我々、現代視覚文化研究会は、いわゆる「オタク系」と呼ばれる、アニメ・漫画・ゲーム等の「現代視覚文化」に関するものであれば何でもやる、という少し変わったサークルです。そのため、他のサークルのように、何か一つの活動を行うというよりは、多種多様な事を行っているという点で珍しいサークルと言えるでしょう。

創作活動として、イラストや漫画、小説(一次創作二次創作は問わない)等を執筆し、同人誌即売会や学園祭にて同人誌を頒布したり、学園祭にてメイド喫茶を運営したり、はたまた学園祭に声優さんをお呼びし、ライブの運営を行ったり、「踊ってみた」等と呼ばれる、アニソン等に合わせた振り付けのダンスを練習したり……。本当に様々なことをやっています。

またその時代にあった新しい文化やその時の流行に合わせ、新しい活動にもどんどん挑戦しているサークルです。今後まだ見ぬ新たな文化が誕生したときにも、いち早く興味を持ち、その文化に関連する活動を始めて行くことでしよう。

今や「オタク系」という言葉を、誰もが聞いたことのある時代となりました。かつては軽蔑の対象であり、テレビ局の差別用語ともなりながら批判され続けてきた「オタク系」と呼ばれるこのジャンルですが、今では「クールジャパン」として日本が世界に誇るこの出来、数少ない文化とも評される一大文化となりました。

私達は日々楽しみながら、その最先端で、最新の文化の担い手として活動しています!

(寄稿/現代視覚文化研究会会長 松谷和哉・創成3年)

芸術系サークル連合会活動紹介



月例ライブの様子

つくばフォーク村

つくばフォーク村は弾き語り・バンド活動の両方を楽しめる軽音サークルです。大学から楽器を始めた人も多く、アットホームな雰囲気音楽活動を楽しんでいます。また各構成員には「村民名」がつき、村民として活動します。

普段の活動では週2回ミーティングを開き、皆で輪になり弾き語る「村唄」や、リレーで1人ずつ演奏する「5分間」などを行います。

また月1,2回開催されるライブでは邦ロック、洋楽、ボカロなど幅広いジャンルの音楽が演奏され、熱狂の渦に包まれます。ライブでは演奏はもちろんのこと、会場設営やPA、照明なども全て自分たちの手で運営しています。

その他の活動としては、夏のバンド合宿や春のスキー旅行など、楽しいイベントが沢山あります。

(寄稿/つくばフォーク村村長 出原幹大・教育3年)



ライブの様子

E.L.L.(筑波軽音楽協会)

E.L.L.は、筑波大学の5つある軽音楽サークルの内の一つです。その名称はギタリスト、ジミー・ヘンドリックスの1st アルバムの「Electric Lady Land」からとっています。サークル員には楽器初心者から無類の音楽好きまで集まり、ビートルズやキンクスなどの古き良き時代の音楽から近年の邦ロックやモダンな洋楽など幅広い音楽をバンド形式のライブで行っています。また、キャンプや合宿、クリスマスライブなどの季節ごとのイベントも多く充実したサークルライフを送ることのできる魅力的なサークルです。毎月定期ライブを行っているため、是非聴きにきてください。

(寄稿/E.L.L.会長 田丸圭祐・心理3年)



2019年制作の作品「スーホの白い馬」より

人形劇団NEU

大人も子供も楽しめる人形劇の世界を、学内外問わず様々な場所へお届けする劇団系サークルです。国内最大の人形劇の祭典「いいだ人形劇フェスタ」など著名なイベントへ参加して作品を上演するほか、プロ劇団からの指導を受けたり、首都圏の大学のサークルと技術交流を行うなど、学内外で活発な活動を続けています。大学の人形劇サークルとしては珍しい、芸術性を重視した大人向けの作品づくりを得意とするので、各所で注目を集める劇団です。

人形劇をやりたい、新しいスタイルの演劇に挑戦してみたい、子どもたちの前で芝居をしてみたい、美術制作をしてみたい等々、構成員の動機はさまざま。新たな機材や道具の購入等に筑波大学紫峰会基金からの援助金を活用し、新しい活動の場を増やすために役立てています。

(寄稿/人形劇団NEU座長 稲田和巳・創成3年)



新入生歓迎会で披露した演目「土蜘蛛」でのワンシーン

能狂言研究会

私たち筑波能狂言研究会は日本の古典芸能である能楽の実演・研究・鑑賞を目的とするサークルです。シテ方、狂言方、研究方の3つの部門があり、それぞれ仕舞、小舞の実演、研究をおこなっています。プロの先生にお稽古をつけてもらいながら、新歓公演、文化祭での公演、卒業公演を中心に、学外のイベントにも参加しています。卒公を3月に終え、現在部員は8人と少ないですが、普段は開学記念館で和気藹々と練習をしています。

文化祭では、公演の他にも資料の展示や着付け体験を行いました。

能狂言研究会では定期的に能の鑑賞ツアーを企画しています。情報は随時ツイッター(@tkb_nokyo)や掲示で発信していく予定ですので、チェックしてみてくださいね。部員一同お待ちしております。

(寄稿/能狂言研究会部員 大谷姫歌・芸専2年)

体育会活動紹介



秋の八耐集合写真

サイクリング部

我々サイクリング部は初心者から経験者まで多くの自転車好きが集い、体力や走行技術の向上を目指す他、自転車を通じて部員同士の親睦を深めるなど活発に活動しています。主な活動内容はツーリングと競技の2つですが、どちらの活動にも参加できる自由な体制をとっています。

ツーリングの活動では、それぞれの部員が食・自然、あるいは難所など多岐に渡った目標を持って、日帰りのランや日本各地を泊まりがけで旅するランなどを行っています。

また、競技の活動では、学連や実業団でのレースに勝つこと、自己ベストを出すことを目標に日々練習を行っています。常に熱意と自転車で走ることの楽しさを共有していくのが我々サイクリング部です。

(寄稿/サイクリング部主務 巨島和樹・情報3年)



秋季関東学生卓球リーグ戦

卓球部

筑波大学卓球部は、インカレや全大学、全日本など全国大会での上位進出、さらには世界で活躍する選手の輩出を目標に活動しています。今年度は団体戦に特に力を入れてきました。しかし、インカレでは男女ともに優勝校に敗退し、男子準優勝、女子ベスト16という悔しい結果に終わりました。来年のインカレでは必ず優勝できるよう工夫を重ね、各学年が意欲的に日々の練習に取り組んでいます。また、運営面では主体的にチーム運営することを通じて将来の社会のリーダーを育成することを目標にしています。構成員の約半数を占める体育専門学群以外の学生とも協力し、一人一人が自らの役割を全うできるよう、主体的に活動しています。これからは競技面、運営面でより一層向上できるようにチーム一丸となって日々精進してまいります。

(寄稿/卓球部主務 村田聖・体専3年)



2019年春季ホッケーリーグ vs 専修大学

フィールドホッケー部

こんにちは。私たちは、筑波大学フィールドホッケー部です。フィールドホッケーというスポーツは日本では知名度が低く、競技人口もあまり多くありません。そのため、入部してくるほとんどの学生は未経験者が多いです。しかし、週4日の練習を通じ、基本的な技術からチーム全体での戦術までを習得し、毎年春と秋に行われる関東学生ホッケーリーグにおいて良い成績を残すことを目標とし、日々勉強と並行して練習に励んでいます。

また、春と夏の長期休暇には長期間の合宿を行ったり、学期期間中には定期的に県内の高校と練習試合を行ったりすることで大会に向けた準備を行っています。

今年のチームは、主将の駒井を起点とした攻撃や、経験の豊富な4年生の堅守、高い運動能力を持った伸びしろの多い1年生の活躍等を特徴とした堅守速攻のチームとして秋季リーグに臨みます。

(寄稿/フィールドホッケー部主務 脇 拓哉・エシス2年)



天皇賜杯第88回日本学生陸上競技対校選手権大会

陸上競技部

陸上競技部は、チームとしてはインカレでの男女総合優勝を目指し日々活動を行っています。多くの皆様の支えを受け、今年度の全日本インカレでは男子総合3位、女子は昨年に引き続き総合優勝という結果を残すことができました。陸上競技は表向きは個人競技でありながらも、大学陸上ではチームとしての団体競技の側面も持ち合わせています。自身の競技、そしてチームとしての組織運営とやるべきことが多い中、部員はその活動の中で多くのことを学びながら今よりも進化できるよう挑戦しています。個の成長、大会での男女アベック優勝、より良いチーム作りと理想は高く、発展途上の未完成なチームではありますが、これからは部員一同努力を重ねて参りますので、これからは応援のほどよろしくお願い致します。

(寄稿/陸上競技部主事 大橋凱・体専4年)



コンタクトの激しいDF

医学ハンドボール部

私たち医学ハンドボール部は現在56名で構成され、男子部女子部ともに春と秋に行われる関東医歯薬獣大会での優勝、さらに男子部は夏の東日本医科学生総合大会での優勝を目指し活動しております。大学からハンドボールを始めた部員が半数以上ですが、部員同士積極的にコミュニケーションをとりながら「考えるプレー」を意識して日々練習に励んでいます。またキャンプやマネージャー感謝祭等のイベントも開催され、学年問わず気軽にコミュニケーションがとれる良い雰囲気ができています。この1年間では関東医歯薬獣系大学ハンドボール秋季大会で女子部3位、関東医歯薬獣系大学ハンドボール春季大会で女子部優勝・男子部ベスト4、さらに男子部は東日本医科学生総合大会準優勝と結果を残すことができました。これ以上の成績を残せるよう、これからもお互いに切磋琢磨しながら練習に励んでまいります。

(寄稿/医学ハンドボール部主将 井上潤紀・医学3年)

体育会夏季幹部研修会

上半期の活動を終えて

皆様、こんにちは。体育会執行委員会第43代委員長を務めさせていただいております、体育専門学群4年の長谷勇希と申します。皆様のご支援を賜り、2019年上半期も体育会は充実した活動を行うことができました。この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。誠に有難うございました。また先日執行委員会でも、上半期を振り返る「夏季幹部研修会」を実施致しました。今回は一区切りが付いて感じたことを、自分から述べさせていただきます。

執行委員会は、「幹事」と呼ばれる2年目の委員、「局長」と呼ばれる1年目の委員の合計30名で活動しています。会の実務は主に局長が行い、幹事はそのサポートや委員長・副委員長などの役割に就くという組織体制です。この半年、組織の責任者としてそしてい幹事として局長たちを見ていましたが、本当に成長してくれたと感動しています。



研修会に取り組む執行委員たち



大会での得点後

医学サッカー部

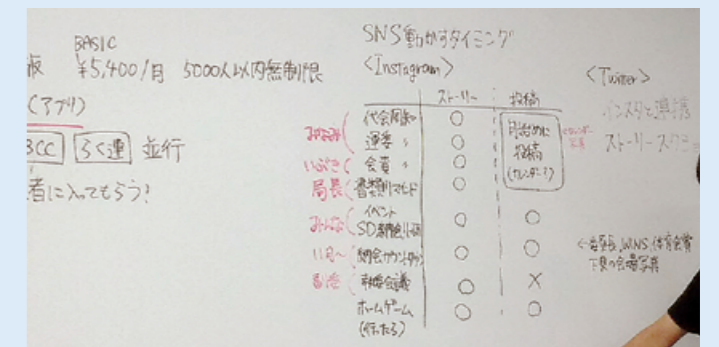
我々医学サッカー部は、8月に行われる東日本医科学生総合大会、関東医歯薬獣春季大学サッカーリーグ、秋の東日本国公立医科学生サッカー大会での優勝を目標に掲げて活動しています。活動日は火・木・土・日と週4日で、日曜日には他校との試合を行っています。私たちには指導者がいないため、幹部代を中心として自分たちで練習メニューや戦術を考え、プレイヤー同士で互いに教え合いながら練習しています。また練習や試合の動画を撮ることで、ピッチ外でもサッカーの分析をしています。春季・秋季の関東医歯薬獣大学サッカーリーグでは優勝・準優勝と結果を残していますが、東日本医科学生総合大会ではここ数年芳しい結果が残せていないので、タイトル獲得を目指して練習に励みたいと思います。

(寄稿/医学サッカー部主務 山下慧悟・医学3年)

当然ですが局長たちも自分の団体の練習があり、さらに授業などをこなす多忙な生活の上で、執行委員会の仕事を捌くこととなります。実際年の初めはいくつかの仕事が滞り、自分も焦りを覚えていた記憶があります。他の幹事たちも、サポートしすぎると局長の成長に繋がらないと悩み、苦労していたように見えました。しかしいくつかの難しい仕事や様々なイベントを乗り越えて上半期を終えると、局長たちは別人のように要領が良くなり、かつ正確に仕事をこなすようになりました。彼らの成長を嬉しく思うと共に、局長を導いた幹事たちの指導力もまた誇りに思います。

執行委員会の活動はスポーツに取り組むだけでは得られない経験を手にできる、と自分は考えています。筑波大学体育会発展への貢献はもちろん、執行委員が有意義な時間を過ごせるような活動を、下半期も目指したいと思います。

(寄稿/体育会執行委員会 第43代委員長 長谷勇希・体専4年)



尽きない議題

筑波大学の図書館

学生や教職員だけでなく、一般の方も利用できる筑波大学の図書館は、全部で5つあります。図書の貸し出し・返却や、学習スペース・全学計算機の利用など、様々な使い方が可能な筑波大学の図書館。今回は、各図書館の特徴をご紹介します。

中央図書館

<基本情報>

・1979年10月開館	
・開館時間	8時30分～24時
・蔵書数	約192万冊
・1日あたりの平均入館者数	約1,720人

<利用者の声>

心理学類2年 Sさん
 ・利用頻度 月2～3回
 ・用途 勉強、読書、資料探し
 ・感想 「話してもいい場所」と「話してはいけない場所」が区別されていて、その時の用途に合わせて利用できる点がとても良いと思います。作業スペースも十分広く、使い勝手が良いです。



吹き抜け



展示スペース

<特徴>

日本十進分類法のどの区分の図書もまんべんなく所蔵されており、学内の他の図書館に比べて圧倒的に所蔵数が多いです。東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学に所蔵されていた図書は「旧分類」（大学の独自分類）と呼ばれ、和書は「いろは順」に、洋書は「アルファベット順」に分類されています。明治時代から前身校が収集した図書を旧分類として1階と中2階に配置されており、レポート作成のほか、過去の資料の調査や古典文学作品の調査、2階以上に所蔵する図書の旧版の参照などに活用されています。

2階の入口と吹き抜けの真下が展示スペースになっており、そこでは大学の団体・サークルなどが申請して展示を行うことが多いです。最近では、筑波大学 URA 研究戦略推進室主催で、研究ポスターの展示に対して来場者がコメントを書き、そのコメントを研究者にフィードバックするという企画展示がありました。

メインカウンター、レファレンスデスク、ボランティアデスク、学生サポートデスクの4つのカウンターがあり、手厚いサポート体制が整っています。

中央図書館は、図書や雑誌の利用の場としてだけでなく、規模の大小を問わず交流の場としても活用することができる図書館です。

体育・芸術図書館

<基本情報>

・1974年7月開館	
・開館時間	8時30分～22時
・蔵書数	約27万冊
・1日あたりの平均入館者数	約340人

<利用者の声>

芸術専門学群2年 Rさん
 ・利用頻度 月2～3回
 ・用途 勉強、資料探し、レポート作成など
 ・感想 とても居心地のいい空間だと思います。いつでも立ち寄れる場所として、空きコマの時間や少しの暇つぶしに通ったりしています。



ユーリカ!



吹き抜け

<特徴>

筑波大学開学の翌年の昭和49(1974)年に、筑波大学最初の図書館として開館しました。建物は建築家横文彦がデザインし、主に体育と芸術の図書を所蔵している図書館です。歳月が経ち、図書館は学生のニーズに合わせて進化しています。

2016年、ラーニングcommons「Eureka ユーリカ!」が誕生しました。Eurekaは学生が自由に使える学習スペースであり、芸術専門学群の学生や教職員の作品を展示するギャラリーでもあります。作品展示以外にも、全国各地の最新の展覧会のポスターが貼ってあり、常にチェックできます。また、図書館の貴重なコレクションである1964年の東京オリンピック関係資料もギャラリーエリアに展示されています。

Eurekaの設置は、利用者の要望によるラウンジの整備の検討から始まりました。その後2014年に場所確保のために視覚障壁を移動し、資金の獲得も精力的に行い、さらに芸術専門学群の学生もデザインに参加しました。開放感を持たせる入館ゲートとラウンジの間の透明な仕切り、デザイナーズ家具の設置、壁面の塗り替え、土佐和紙を使った照明カバーなどは学生によるデザインです。

建築における特徴は、1階から4階にかけての吹き抜けを利用した南北に分かれた構造です。高さのある吹き抜けは空間に開放感を持たせ、館内の階段は各階と南北の部屋をつなぐ通路として機能しています。芸術と体育のエリアは各階に分かれていて、蔵書エリアと閲覧室エリアは南北で分かれています。南側にある大閲覧室は1・2階にわたる吹き抜けの広い空間であり、2階分の大きさの窓から外の自然も感じられます。

医学図書館

<基本情報>

・1978年1月開館	
・開館時間	8時30分～22時
・蔵書数	約17万冊
・1日あたりの平均入館者数	約470人

<利用者の声>

医療科学類2年 Sさん
 ・利用頻度 試験や課題の有無にも左右されますが、おおよそ週に2回程度利用しています。
 ・用途 勉強をしたり、レポートを書いたりしていることが多いです。
 ・感想 勉強スペースが広く、勉強などに使いやすい図書館です。



洋雑誌



医学関係図書

<特徴>

日本十進分類法の「4. 自然科学」のうち、特に医学分野の図書が、学内の図書館の中で最も多く所蔵されています。

また、「医学基本図書」は、医学群の教員が医学群生に読んでほしい図書を1か所にまとめて置いたもので、同じ図書を3冊ずつそろえています。うち1冊は館内利用専用となっており、ほか2冊は貸出期間を1週間として使われています。

キャレルデスク、衝立がある机、カウンタータイプの机といった個人向けの机や、4人掛けや6人掛けで集団で使える大きな机など、様々なタイプの机が設置されています。学習や研究においては、タブレットやPCを活用することも多いため、各机では電源が確保され、学生が熱心に利用しています。

「個人で静かに集中できる環境」を最優先にしているため、入口前には軽食がとれるラウンジスペースが設けられており、利用者はここで談笑をしたり、休憩をとったりしています。

図書館情報学図書館

<基本情報>

・1980年5月図書館情報大学附属図書館として開館、2002年10月筑波大学附属図書館に統合	
・開館時間	8時30分～22時
・蔵書数	約26万冊
・1日あたりの平均入館者数	約170人

<利用者の声>

知識情報・図書館学類3年 Yさん
 ・利用頻度 月1～2回程度
 ・用途 授業や課題のための調べごと、公務員試験の勉強のためなど
 ・感想 多くの資料が取り揃えられており、課題などの調査がしやすいです。また一般教養の参考書も様々なレベルのものがあり、自身に合わせて勉強を行いやすい環境です。



フェイスアップテーブル



入口付近

<特徴>

図書館情報学図書館は、1980年に図書館情報大学の附属図書館として開館し、2002年、筑波大学と図書館情報大学の統合により、現在の形となりました。図書館は2階建てで、1階は主に情報学や図書館学の図書を所蔵しており、図書館員、公務員、大学院試験向けの参考書のコーナーもあります。また、国内外の児童図書、絵本、紙芝居も所蔵していて、予約制の「お話しルーム」で読み聞かせ練習が行えます。2階は主に他分野の学術や研究の図書が置かれています。かつて公共図書館の役割を果たす公開図書室が開設されていたこともあり、一般的な図書も所蔵しています。また、図書館報のコーナーも設置しており、全国各地の図書館が刊行した館報が揃っています。これは他にはあまり見られない、図書館情報学図書館独自のコレクションです。

学生の学習スペースも広く設けられています。1階は談話ができるラーニングcommonsや全学計算機システムPCエリアを設置しており、グループ学習スペース、リラックススペースとして学生がよく利用します。チューターデスクも設置されていて、課題や履修の相談にのってもらえます。また、1階のラーニングcommonsプレゼンルームに、フェイスアップテーブル(タッチパネルモニター付きテーブル)が導入されており、ミーティングやプレゼンテーションに役立ちます。2階に大人数でセミナーやミーティングができる、プロジェクターの使用が可能なセミナー室があります。

別棟のメディアミュージアムは、図書館情報学図書館の展示スペースとして使われており、「記録メディアの発達と図書館の変貌」の常設展に加えて、年数回の特別展が行われています。

図書館情報学図書館には特徴的なコーナーや専門図書があり、学習スペースにパソコン、プロジェクター、フェイスアップテーブルなどが完備されていて、学生が多目的に使える図書館となっています。

大塚図書館

<基本情報>

・1989年6月開館(大塚地区)、2005年4月開館(秋葉原地区)、2011年9月東京キャンパス文京校舎にてリニューアルオープン	
・開館時間:10時30分～18時30分(月)、10時～21時10分(火～金)、10時～19時50分(土)、10時～18時(日)	
・蔵書数	約8万冊
・1日あたりの平均入館者数	約250人

<特徴>

経営、法律、生涯発達、カウンセリング、リハビリテーション、スポーツマネジメントなど、東京キャンパスに設置されている専攻に合わせた図書を所蔵しているため、日本十進分類法の「3. 社会科学」の分野が最も多いです。

社会人大学院がある関係で利用者の年齢層が高めであり、授業時間に合わせた開館時間としています。東京キャンパスでは土曜日が最も授業時間が長いので、土曜日が一番利用者が多いです。

筑波大学東京キャンパスと、放送大学東京文京学習センターは、同じ建物にあり、大塚図書館は双方の学生が利用する施設です。放送大学の図書は青い書架に並べてあり、どちらの大学の図書であるかが配置場所で見分けるようになっています。

大塚図書館は特に学外の方の利用が多く(2018年度:筑波大63%、放送大22%、学外者15%)、主に静かに勉強する場として活用されています。



経済・法律関係図書



新着雑誌と放送大学書架

全学学類・専門学群代表者会議活動紹介

「第7回つくば市長と筑波大学学生の懇談会」が開催される

夏休み最後の日である9月30日、五十嵐立青つくば市長にご出席いただき、「第7回つくば市長と筑波大学学生の懇談会」が開催されました。市長からつくば市の未来構想についてお話しいただいた後、学生との対談が始まりました。特に、「大学卒業後もつくばに住み続けるためには」というテーマでは、就職先やコミュニティなどの観点から、つくば市が具体的にどのような取り組みを行っているのを知り、さらには学生の意見を直接市長に届けることもできる機会となりました。

今回は46名もの学生が参加し、学生からも多数の意見を聞くことができました。今後ともつくば市政に学生の意見を反映させていただける良い機会として、開催を続けていきたいと考えています。

(寄稿/全学学類・専門学群代表者会議議長 瀬邊風馬・日2年)



参加者集合写真

参加者の感想

筑波大学に通う学生として、五十嵐立青つくば市長がどのような心持ちで市政を行っているかに興味を持ち、この度はつくば市長と筑波大学学生との懇談会に参加させていただきました。

五十嵐市長は筑波大学の国際総合学類を卒業されており、市長としてだけではなくOBとしても語りかけてくださったため、大変勉強になる懇談会になったのではないかと思います。

懇談会は主に市長による講話と市長と学生による意見交換会の二部で構成されていました。

前半の市長による講話では、市長を目指すきっかけとなった留学先での体験談や、ごきげんファームやSDGsパートナーズなど今まで取り組んでいらしたプロジェクト、「世界のあしたが見えるまち。」としてのつくばを実現するために行ってらっしゃる政策などについてお話されました。

後半の意見交換会においては、五十嵐市長から卒業後もつくばに住みたいかという問いかけに基づいて様々な意見とフィードバックの交換があり、色んな側面からつくばという街を見直す機会となりました。また、様々な学類・年齢・立場の学生から寄せられた質問とそれらに対する五十嵐市長の真摯な回答を聞くことができました。

意見交換会において、近々つくば市が日本で初めて導入するスマホ投票についての言及があり、個人的には大変印象に残っております。

五十嵐市長をはじめとする市の職員さんがつくばをよりよい街にしていこうと努力されていることを感じ取り、これからのつくばの発展が楽しみになる懇談会でした。

(寄稿/全学学類・専門学群代表者会議議長 福沢益友・比文1年)

新入生歓迎特別委員会の紹介

新入生歓迎特別委員会は数ある全大会の委員会でも特殊な委員会です。委員会の名前だけでは誤解を呼んでしまいかねませんが、新入生に直接関わることは行いません。各学類が新入生を歓迎するためのお手伝いをしています。そのため、11月～4月下旬までが主な活動期間です。

その業務は多岐に渡ります。副学長決定により選出義務のある組織の説明会の開催・日程調整、各学類の新入生歓迎委員会が円滑に活動を行うための連絡会、筑波大学紫峰会基金への援助金申請受付などを行っています。また、合格発表時には巡回を行っています。もし以前黄色いジャンパーを着た学生を見かけたことがあれば、それが我々です。

活動を目にするのはとても少ない委員会かと思いますが、心の隅に留めておいていただけると幸いです。

(寄稿/全学学類・専門学群代表者会議
新入生歓迎特別委員会委員長 中村紗彩・知識2年)



宿舎入居での活動の様

広報委員会の紹介

<広報委員会の紹介>

広報委員会は全大会の広報及び委員会の活動報告と、学生にとって有益な情報を、全大会の広報誌「Campus」やTwitter、ポスターといった様々なツールを通して発信することを目的として活動を行っています。広報委員は「Campus」の取材と記事執筆及びレイアウト組みをメインに行う編集部と「Campus」の表紙デザインや他の委員会から依頼のあったビジュアルポスターや看板の制作をメインに行う制作部に分かれて活動します。

<活動の紹介>

全大会の広報誌「Campus」の制作が主な活動となっておりますが、今年度は他の委員会からのポスター制作依頼(例として、節電周知や

全大会集中アンケート周知など)が多く、毎週の活動が充実したものとなっております。また、部を定めない業務として、全大会に関わる行事や本会議、意見聴取会といった場での写真撮影といった全大会の活動を逐一記録して行っています。他にも広報委員長や全大会議長を主体として、Twitterを用いた全大会の広報活動及び学生にとって有益な情報の発信を行っております。

今年度は昨年度よりも委員の人数が増え、全大会の中で最もにぎやかな委員会となりました。今後ももっと多くの学生・教職員に全大会の活動を知っていただけるよう努力してまいります。

(寄稿/全学学類・専門学群代表者会議広報委員長 軽辺凌太・地球2年)

学生の一週間

ここでは、学生2名の一週間のスケジュールを例に、筑波大生が実際にどのような生活を送っているのかを紹介します。

3年生 Uさん 秋学期Aモジュール(10月～11月)

生物学類3年生のUさんは、サークルなどで帰宅が遅くなり、そこから授業の課題や自分の趣味に取り組むため就寝時間はいつも夜12時を過ぎてしまうため夜型の生活に。飲食のバイトをしているので夕食はそこで取ることも。その分平日は昼寝したり、休日ゆっくり寝ることでバランスを保っているそうです。

	月	火	水	木	金	土	日
6							
7	睡眠	睡眠	睡眠				
8				睡眠	睡眠		
9	授業	授業	授業			睡眠	睡眠
10							
11	睡眠		睡眠	授業	授業		
12		睡眠	昼食				
13	授業		授業	昼食	昼食		昼食
14						外出	
15				授業	外出		睡眠
16	実験	実験	外出			昼食	
17							
18							
19			サークル				サークル
20	サークル					外出	
21							
22	夕食	バイト	夕食	バイト	バイト		買い物
23							夕食
24	趣味や勉強		趣味や勉強				
1		買い物		買い物	買い物	夕食	趣味や勉強
2	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	趣味や勉強	趣味や勉強	
3							

3年生 Nさん 秋学期ABモジュール(10月～12月)

芸術専門学群3年生のNさんは、馬術部に所属しており、彼は馬たちのお世話をするため朝昼晩と活動しています。何より朝早くから活動するため日付が変わる前には寝るなど、規則正しい生活を送ることを心がけているそうです。

	月	火	水	木	金	土	日
5							
6	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
7	サークル(朝当番)	サークル	サークル	サークル	サークル		サークル
8						サークル	
9	睡眠or風呂	睡眠or風呂	授業	睡眠or風呂	授業		
10	授業		勉強		勉強		
11	サークル(昼当番)	サークル(昼当番)	昼食	昼食	昼食		
12							
13			授業				
14	授業	授業		授業	授業		
15			勉強				
16							
17	サークル(夕当番)		サークル(夕当番)			趣味orバイト	帰宅
18	帰宅	サークル	帰宅	帰宅	帰宅		夕食
19	夕食	帰宅	夕食	夕食	夕食		
20		夕食		趣味や勉強			
21	趣味や勉強	サークル(夜飼い)	趣味や勉強	サークル(夜飼い)	趣味や勉強		趣味や勉強
22		趣味や勉強		趣味や勉強			
23							
24							
1	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
2							